研修報告　F班1グループ　K2

PBLとポートフォリオの活用　～社会に適応できる力～

【大学の役割】

大学について各々が思うことをフリーワードとして挙げ、意見交換を行った。その中で私たちは、大学の主な役割とは「教育」と「研究」であると考えた。そして、より自分たちの業務に関わりの深い「教育」に焦点をあてることとした。

次に、学生が社会の変化に適応できる能力（＝主体性）を身につけるために、自ら考えて行動できる主体性を育む「教育」を提供することが、今、大学に求められている役割であると考えた。

【大学の現状】

大学の現状として、次のような意見が挙がった。

・学生の学修に対する意欲に差がある。
・ただ卒業できればよいという、簡単な単位取得を目指す傾向がある。
・興味のあることには特化するが、それ以外には積極性に欠ける。
・自信がなく、失敗を恐れ、挑戦する勇気がない学生が多いように思われる。
・持久力・耐久力の低下。
・グループワークのない講義ばかり受講する傾向がある。
・教員側も、一方的な講義を行い、成績評価のみで終わる場合が多い。

昨今、離職率の高さが問題視されているが、上記の現状にある学生が、何事にも受け身の姿勢のまま卒業し、社会で困難に出会ったときに安易に仕事を辞めてしまうことも一つの原因だと考えられる。

我々は、受け身の学生に、自ら考え行動できる能力、すなわち主体性を身につけさせることが必要だと考えた。

【解決策】

主体性を育むには、どうしたらよいのか。グループ討議した結果、学生に自分たちで考えたことを行動に移せる場と、失敗させる機会を与えることが必要だと考えた。挑戦し、失敗し、考察し、また挑戦することを繰り返し、学生は主体性を身につけていくのではないか。

そこで私たちは、「PBL科目の必修化」と「ポートフォリオの活用」が、その解決策になるのではとか考えた。

この2つを選んだ理由は次のとおりである。

ＰＢＬ科目　問題解決型授業。

※学生自らプロジェクトテーマを設定し、解決方法やプロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行う。

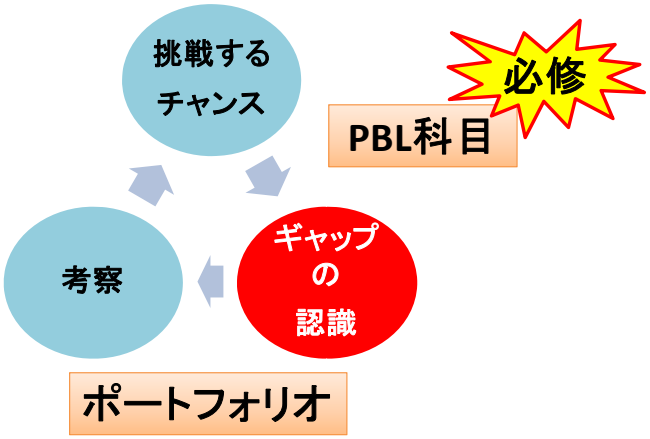
期限内に結果を出さなければならず、その中で失敗や挫折を含んださまざまな経験ができる。挑戦する場となり、自信を持たせることができる。

→ 主体的な環境で学ぶ場の提供

ポートフォリオ　学生の学修自己評価と、指導者の評価を系統的に蓄積するシステム。

自己評価と対外評価の差が、明確に認識できる。

→ 成績の振り返りを行う場の提供



「PBL科目の必修化」と「ポートフォリオの活用」によって、学生に挑戦するチャンスを与え、常に自己評価と対外評価の差を認識させ、次の目標へ進み続けるサイクルの構築をする。

また、PBL科目を必修化することで、学修意欲のない学生も、意欲のある学生との相乗効果により、強制的にこのサイクルに組み込まれることとなる。

教員は、PBLに沿った講義内容の構成を考え実施し、ポートフォリオにおける評価入力を行う。職員は、ポートフォリオの構築・運用をする。また、失敗させたままで終わらせないフォロー体制の整備など、このサイクル実現には、教職員一体となった協働が必要となる。

【まとめ】

私たちはPBL科目の必修化とポートフォリオの活用によって、目標を定めて挑戦し、目標や理想とのギャップを認識（＝失敗）し、振り返り、また新たな目標を定め挑戦するというサイクルを、強制的に繰り返させることで、学生の自主性を育み、卒業後、社会で直面する課題を乗り越える免疫をつけることができるのでないかという結論に達した。

挑戦し、失敗し、振り返る。また挑戦し、失敗し、振り返る…。これは学生だけではなく、私たち職員にも必要なサイクルではないだろうか。